

## 第2章

# アンケート調査結果の概要

### 1. 男女平等意識について

～「学校教育の場」以外では男性優遇と感じる人が多い

#### (1) 男女の平等感

男性優遇感は、「政治の場」が 69.6%と最も高く、次いで「社会通念・慣習・しきたりなど」が 64.9%、「社会全体」が 60.4%となっている。また、男性優遇感をもつ人の割合は、「家庭生活の場」、「政治の場」、「法律や制度の上」で前回調査よりも高くなっている。

平等であると感じている人の割合は、「学校教育の場」が 52.3%と最も高く、「政治の場」が 13.6%と最も低くなっている。また、「学校教育の場」、「地域社会（町内会、自治会など）」、「政治の場」、「社会全体」では平等であると感じる人の割合が前回調査より低くなっている。

女性優遇感をもつ人の割合は、「職場」、「地域社会（町内会、自治会など）」、「政治の場」、「社会通念・慣習・しきたりなど」、「社会全体」で前回調査よりも高くなっている。（P22～P38 参照）

#### (2) 男女平等になるために重要なこと

男女とも、「男性はこうあるべき、女性はこうあるべきという性別による役割分担意識や固定的な社会通念、慣習、しきたりを改める」（48.8%）の意見が最も多く、次いで女性では「政府や企業などの重要な役職に一定の割合で女性を登用する制度を採用・充実させる」（13.2%）、男性では「法律や制度の面で男女差別につながるものを改める」（18.9%）が多くなっている。

（P39～P40 参照）

#### (3) 男女の役割分担意識についての考え方

「男性は外で働き、女性は家庭を守るべきである」というような、性別によって役割を固定する（決めつける）考え方について、『賛成計』が 7.6%、『反対計』が 67.7%となっており、前回調査と比較すると、『賛成計』の割合は低下し、『反対計』の割合は上昇している。『反対計』では女性の方が男性より 10.2 ポイント高くなっており、男女の差がみられる。（P41～P42 参照）

## 2. 家庭生活について

～育児、学校行事への参加、親の世話は「夫婦が同程度分担」が理想、「妻の役割」が現実

### (4) (5) 家庭生活での夫婦の役割分担の現状と理想

全ての項目において、夫婦で同程度分担することを理想とする人は半数を超えているが、現状では「家庭の問題における最終的な決定をする」を除いた全ての項目で、同程度分担している人は5割未満となっている。また、「育児、子どものしつけをする」、「学校の行事に参加する」、「親の世話・介護をする」については、同程度分担することを理想とする人が8割を超えているものの、現状では育児と学校行事への参加は「主に妻」の分担の割合が高くなっている。(P43～P63 参照)

### (6) 子どものしつけや教育について

「女の子も男の子も同等に経済的に自立できるよう職業人としての教育が必要だ」、「男の子も女の子も炊事・掃除・洗濯など、生活に必要な技術を身につけさせるほうがよい」については、『賛成計』が約9割となっている。「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしく育てたほうがよい」は、『賛成計』が3割を超えており、男性の方が女性より高い割合となっている。(P64～P70 参照)

### (7) 男性が家事、育児に参加するために必要なこと

女性では、「男性による育児・介護・家事などについて、職場における上司や周囲の理解を進めること」(67.6%)の意見が最も多く、男性では「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」(62.5%)の意見が最も多くなっている。(P71～P72 参照)

### 3. 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

～現状では「仕事と家庭生活を優先」、「家庭生活を優先」の人が2割強

#### （8）（9） 仕事と生活のバランスの希望と現状

現状では、「「仕事」と「家庭生活」をともに優先している」が23.5%と最も高く、次いで「「家庭生活」を優先している」が22.3%となっている。

希望との差をみると、女性では「「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」の全てを両立したい」（希望20.9%、現状4.9%）で16.0ポイントの差、男性では「「仕事」を優先したい」（希望7.3%、現状29.1%）で21.8ポイント差となっており、希望と現状に乖離がみられる。（P73～P78 参照）

#### （10） 職場での男女差

平等であると感じている人の割合は「賃金」、「研修の機会や内容」が半数を超え、特に高い割合となっている。一方で、「昇進・昇格」は男性優遇感を感じる人の割合が3割を超え、「育児・介護休暇など休暇の取得しやすさ」は女性優遇感を感じる人が3割を超えており、他の項目に比べ高い割合となっている。（P79～P93 参照）

#### （11） 女性の就業についての意識

『就業継続型』を支持する人は男女とも6割を超えて最も高くなっている。前回調査と比較すると、『就業継続型』は13.5ポイント増加と大きく上昇している一方で、『中断再就職型』は低下している。性別・年代別でみると、いずれの年代においても『就業継続型』を支持する人は5割を超えている。（P94～P95 参照）

#### （12） 女性の就業継続について

男女とも「育児休業や短時間制度などの仕事と家庭の両立ができる制度を充実する」（女性66.2%、男性56.5%）との意見が最も多く、次いで「結婚・出産・介護などの都合で一旦、退職した女性のための再雇用制度を普及、促進する」（女性52.5%、男性48.6%）となっている。（P96～P97 参照）

## 4. 人権への配慮について

～女性の3割強、男性の1割強が配偶者等から何らかの暴力を受けた経験がある

### (13) 配偶者等からの暴力を受けた経験

配偶者等から『何らかの暴力を受けた』(女性 31.4%、男性 14.3%) 経験がある人の割合は、女性の方が 17.1 ポイント高く、男女の差がみられる。暴力の種類では、「大声でどなられる」経験があると回答した人の割合が最も高くまた、「何を言っても無視され続ける」を除いた全てにおいて、男性より女性の方が高くなっている。(P98～P99 参照)

### (14) 配偶者等からの暴力を受けた時の相談先

「どこ(だれ)にも相談しなかった」(51.4%) が最も多く、次いで「友人・知人に相談した」(29.4%)、「家族に相談した」(25.0%) となっている。『何らかの相談をした』人(女性 51.4%、男性 31.6%) の割合は、女性の方が 19.8 ポイント高くなっている。(P100～P101 参照)

### (15) 配偶者等からの暴力を受けた時に相談しなかった理由

「相談するほどのことでもないと思ったから」(31.6%) との回答が最も多く、次いで「相談してもむだだと思ったから」(30.9%)、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」(21.7%) となっている。(P102～P103 参照)

## 5. 男女共同参画センターについて

～最も利用してみたい男女共同参画センターの機能は、「男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集と提供」

### (16) 宮崎県男女共同参画センターの利用希望・利用経験

「利用してみたい(利用したことがある)」人は16.5%、「利用したいと思わない」人は77.7%となっている。「利用してみたい(利用したことがある)」(女性18.4%、男性14.3%)人の割合は、女性の方が4.1ポイント高くなっている。(P104～P105参照)

### (17) 利用してみたい男女共同参画センターの機能

「男女共同参画に関する幅広い情報、書籍、資料等の収集と提供」(37.7%)との意見が最も多く、次いで「男女共同参画に関する講演会、フォーラム、勉強会、学習会等の開催」(33.8%)、「個別相談の充実」(28.4%)となっている。(P106～P107参照)

### (18) 男女共同参画センターを利用したいと思わない理由

「利用する必要性を感じない」(70.8%)との意見が最も多く、次いで「居住地から遠い」(19.7%)、「開館日時に利用するのは難しい」(12.0%)となっている。(P108～P109参照)

## 6. 男女共同参画施策について

～県に最も期待される施策は「再就職支援」

### (19) 県が推進すべき男女共同参画施策について

「育児や介護などで一旦、仕事を辞めた人の再就職を支援する」(44.0%)との意見が最も多く、次いで「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女共に働き方の見直しを進める」(40.2%)、「子どもの頃からの男女の平等と相互理解・協力についての教育を充実する」(38.3%)となっている。(P110～P111参照)